



Title	あとがき
Author(s)	浜渦, 辰二
Citation	子育ての現象学. 2023, p. 119-120
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/91225
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

あとがき

浜渦 辰二

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的流行（パンデミック）により当初の計画を変更せざるをえなかったことについては、本書「まえがき」に書いた通りであるが、ほかにも、当初海外の研究協力者として予定していた Erika Ruonakoski 氏（University of Jyväskylä）氏が、都合により参加できなくなり、途中で事情により研究協力に関わることができなくなり、代わりにコロナ禍のなかオンラインで研究協力に参加いただける方として、Valerie Oved Giovanini 氏（California State University）に協力いただくこととした。また、最終（2023）年度には、綿引周氏（東北大学大学院文学研究科）に RA（research assistant）として海外研究者も含めた事務連絡・日程調整などで協力いただくこととした。

以下、延長により4年間となった共同研究「子育ての現象学」の活動記録をまとめておく。

2019/12/12	第1回研究会	浜渦イントロ、プロジェクトメンバーの自己紹介と研究計画
		高橋睦子教授講演
2020/3/下旬	フィンランド渡航を計画していたが、パンデミックのため延期	
2020/5/21	第2回オンライン研究会	近況報告と今後の計画
2020/8/28	第3回オンライン研究会	横山美江教授講演
		池田「子育てに共同で言葉を与えること-ネウボラナースと親子間の対話から-」
		中「文献紹介」
		浜渦「文献とサイトの紹介」
2020/12/24	第4回オンライン研究会	浜渦「子育てにおける祖父母の役割」
	〔分担研究計画〕	小手川「父親の子育てとネウボラ」
		川崎「社会（地域）での子育ての前提となる人間観の検討」
		池田「Doing と Being : 子育てへの実存的・対話的アプローチ」
		中「子育て・妊娠中の困難とネウボラ」
		酒井「これまでの研究」

2021/9/3	1st Online session	Ikeda "Between undertaking work and taking responsibility for children. A discussion on "Why don't men become mothers?"
		Irina "Tackling chronic pain in maternity. Practical implications of art therapy in the mother-child relationship"
		Hamauzu "The Role of Grandparents in Child Care"
2022/2/1	オンライン合評会	中『生殖する人間の哲学』
		評者：酒井・坂本・松木
2022/3/14	2nd Online session	Kawasaki "Reading Practice of Life in Helsinki by Sara Park"
		Valerie "Limitations on childcare due to the ideologies of motherhood"
		Naka "The Public and the Private in Childbirth and Childcare"
2022/7/4	オンライン書評会	朴沙羅『ヘルシンキ 生活の練習』
		評者：小手川・川崎
		浜渦「日本での経験からフィンランド・ネウボラを考える」
2022/12/19	3rd Online session	諸般の事情により延期
2023/2/20	3rd Online session	Kawasaki "On Social Perception of Childcare in Japan"
		Kotegawa "Father and Son: Against Patriarchy"
2023/3/15	4th On-site session	Hamauzu, Irina, Sara
2023/3/27	第5回研究会	浜渦「フィンランド・ネウボラ訪問調査報告」
		各分担者からの研究総括（池田・小手川・川崎・中）

最後に、私事になるが、この2023年3月31日をもって、上智大学グリーンケア研究所・特任教授（副所長）を（二度目の）定年退職をし、また、この科研による共同研究「子育ての現象学」も終了して、あとはもう一年だけの限定で上智大学と放送大学でわずかに講義をもつだけとなり、私の研究・教育の活動は本書の編集をもってすべて完了となる。長い間、ご指導・ご助言・ご協力をいただいた皆さん方に感謝しつつ、皆さんの今後の活躍を祈念しつつ、本書の結びとしたい。ありがとうございました。